

在宅看護学概論

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 大澤 扶佐子 准教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座		
対象学年	2	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

在宅療養者と家族の地域における生活を理解し、在宅看護の理念・目的そして訪問看護の制度について学修する。地域包括ケアシステムにおける訪問看護の位置づけを理解し、退院支援や外来看護等の医療機関との連携について学修する。そして看護と介護のチームケアなど在宅における関係機関や関係職種との連携について理解し、在宅ケアチームにおける看護職の役割を認識する。諸外国の訪問看護を学ぶことでわが国の訪問看護の課題を考える。

・教育成果（アウトカム）

在宅療養者とその家族の置かれている環境と合わせ在宅看護の理念・目的を学修することで、対象者のニーズに合わせ、QOLを高める在宅看護の在り方を考え、訪問看護師の役割を説明することができる。在宅療養者を支えるための関係機関の活動や多職種との連携・協働について学修することにより、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を説明することができる。在宅療養に関わる制度や諸外国の訪問看護を学び、訪問看護の展開の実際や課題を理解できる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：3、4、7、9

・到達目標（SBO）

1. 在宅看護の背景や目的・理念を理解できる。
2. 様々なライフスタイル・健康レベルを有する在宅看護の対象と継続看護の進め方を理解できる。
3. 介護保険等、在宅療養を支える制度を理解できる。
4. 訪問看護者として望ましい身だしなみ・態度について考えることができる。
5. 在宅療養者への支援と訪問看護師の役割について説明できる。
6. 療養者を含む家族の理解と介護を支える支援方法・社会資源の内容について説明できる。
7. 災害時の在宅療養者への対応について理解できる。
8. 地域包括ケアにおける自助・互助・共助・公助の必要性と多職種・多機関の連携・協働の在り方について理解できる。
9. 諸外国の訪問看護から日本の訪問看護について考えることができる。

・ 授業日程

(矢) 西 1-B 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
4/30	金	2	地域包括ケア講座	大澤 扶佐子 准教授	<p>在宅看護の概念 (教科書：①p12～40、70～74、②16～17)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅看護が推進される社会的背景に関心を持ち意見交換できる (ディスカッション) ・ 地域包括ケアシステムにおける自助・互助・共助・公助の必要性と関係機関・職種について説明できる ・ 在宅看護の目的・対象・場を説明できる ・ 訪問看護を行う上で、望ましい身だしなみや態度及びそれが問われる意味を考えられる
5/7	金	2	地域包括ケア講座	松岡 真紀子 助教	<p>在宅療養者と継続看護 (教科書：①p42～51、77～87)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅看護の対象者の特徴について把握できる ・ 在宅療養の成立要件を理解できる ・ 病院内・病院と地域の継続看護の進め方、退院支援を理解できる
5/14	金	2	地域包括ケア講座	松岡 真紀子 助教	<p>在宅療養を支える制度 (教科書：①p112～162)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度における要介護認定から介護サービスの流れを説明できる ・ 介護保険における各種サービスを理解できる。 ・ 介護保険・医療保険・障害福祉サービス利用の例を理解できる
5/21	金	2	地域包括ケア講座	藤原 弥生 助教	<p>在宅療養を支える訪問看護 (教科書：①p164～191)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問看護ステーションの開設基準・対象者を説明できる ・ サービスの内容・実施の流れを説明できる ・ 訪問看護で使用する記録の種類・内容を説明できる

5/28	金	2	地域包括ケア講座	大澤 扶佐子 准教授	在宅療養者と家族への支援 (教科書：①p52～66、125～128) ・在宅療養者への権利保障や、自立支援について説明できる ・家族の理解と支援に家族理論を活用しようと思える（ディスカッション） ・介護負担軽減につながる社会資源を理解できる
6/4	金	2	地域包括ケア講座	藤原 弥生 助教	在宅看護における安全と健康危機管理 (教科書：①p194～205 ②p164～174) ・在宅療養の場で起こる事故の実際を理解できる ・事故を予防するための対応策の例を説明できる ・災害時に想定される療養上の問題と平時の対応策を説明できる
6/11	金	2	地域包括ケア講座	大澤 扶佐子 准教授	訪問看護の活動の実際 (ゲストスピーカー) ・療養生活の場、療養者の状況、看護の関わりの実際から、訪問看護の機能と役割を説明できる
6/18	金	2	地域包括ケア講座	大澤 扶佐子 准教授	訪問看護の動向と今後の発展 (教科書：①p260～274) ・諸外国の訪問看護の実際から、日本の在宅看護の特徴・課題を語る事ができる（ディスカッション） ・訪問看護師のキャリアプランをイメージできる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア	臺 有佳 他編	メディカ出版	2019
教	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術	臺 有佳 他編	メディカ出版	2019

参	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論	川原 佳代子 他	医学書院	2019
参	看護学テキスト NiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続を目指して	石垣 和子 他編	南山堂	2017
参	家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編 第4版	渡辺 裕子 監	日本看護協会出版会	2018
参	家族看護を基盤とした在宅看護論 II 実践編 第4版	渡辺 裕子 監	日本看護協会出版会	2018

・成績評価方法

定期試験 70%と課題レポート 30%の合計 100%にて評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている次回の授業内容及び到達目標を確認し、教科書・参考書等を用いて事前学修を行うこと。また、授業を受けた後は該当する内容を教科書等で復習する。事前に簡単な課題レポートを提示し、それをもとに授業でディスカッションする。各授業に対する事前学修時間は最低 30 分を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

レスポンスカード、グループでディスカッションした内容については、適時コメントを伝えるなど、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

保健師（別表 1）：公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援
 看護師（別表 3）：統合分野 在宅看護論

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ	1	講義用資料投影
講義	DVD（ブルーレイおよび一般 DVD）再生機器	1	講義時使用